

巻頭言

今やり遂げねばならぬ

触媒部

杉浦正治



自動車用「三元触媒システム」は、今世紀最大の技術の1つといえる。この技術は1977年に世界に先駆けてトヨタ車で実用化された。それは自動車排気ガス中の窒素酸化物、一酸化炭素および炭化水素などの有害ガスを当時で90%以上浄化するという画期的な技術であった。トヨタグループの経営トップには、排気規制の達成を何としてでも「自分達の手でやらねばならぬ」という強い意思があった。その意思がエンジン、制御そして材料技術者に移った。そしてやり遂げた。それから22年間たゆまぬ努力が実を結び、現在では、ほとんどのガソリン車が三元触媒システムを搭載している。またこれに加えて、夢の技術とまで言われたリーンNO_x触媒が「吸蔵還元」という新しいコンセプトで実現できた。このことは「自分達の手でやり遂げる」というトヨタグループの伝統が今日まで連綿と続いていることの証しである。しかしそれでもなお、地球環境問題は依然として解決されたとはいえない。21世紀は「環境」と「新エネルギー」の時代といわれる。そんななかで、自動車には従来の触媒に加えて、水素など新エネルギーをつくるための新しい触媒が求められている。「やり遂げる」というこの伝統を守り、今後とも新しい触媒を載せた「人と地球にやさしい自動車」がトヨタグループから発進し続けることに貢献して行きたい。